

虚偽組織ぐるみ否定

東電社長招致 調査協力を表明

東京電力が、国会事故調査委員会に「真つ暗」と虚偽説明をして福島第一原発1号機の現地調査を妨げた問題で、東電の広瀬直己社長は12日の衆院予算委員会

で、現地調査の要請があった場合、「最大限の協力をしたい」と述べ、調査実現に向けて協力すると表明した。

一方、虚偽説明は対国会事故調の窓口担当者が、間違

違った認識で、上司に相談せずにおこなったと説明。組織的関与を否定した。

広瀬社長は参考人として招致され、辻元清美氏(民主)から質問を受けた。

国会事故調に虚偽説明をするに至った経緯について、広瀬社長は、説明者の玉井俊光企画部部長(当時)を「原子力のある意味プロ」としたが、「中は暗い」との



衆院予算委で辻元清美氏の質問に答える東京電力の広瀬直己社長=12日、樺山晃生撮影

と答え、意図はなかったとの従来の主張を述べた。

玉井氏に、会社組織として誰がどのような指示を出していたかに関しては、「全く上司には説明していなかった」と答える一方、社内調査には外部の専門家の検証も入れたことも述べた。

東電の玉井氏は昨年2月末、国会事故調の委員にと

ころごころに明かりの差す4階の映像を見せ、この映像の撮影時は、原子炉建屋にカバールをかける前だったので明かりが差しているが、「今は真つ暗」「照明もついておりません」と説明。これを受け、国会事故調は現地調査を断念した。

ところが実際は、映像の撮影日はカバールをかけた4日後で「今は真つ暗」は虚偽だった。(木村英昭)